



千葉大学医学部同窓会報 第100号 題字 鈴木五郎

編集発行者

千葉大学医学部

るの は な 同 窓 会 報 編 集 部

〒260 千葉市中央区玄鼻1-8-1

千葉大学医学部内

るの は な 同 窓 会

電話千葉 (043) 222-7171内線2038

同窓会会長再任の挨拶と 会報第百記念号を祝して

るの は な 同 窓 会 会 長

名 尾 良 憲 (昭13卒)

昨年六月のるの は な 同窓会総会におきまして会長に再任するようにとのご指名をうけ、いささか困惑した次第であります。と申しますのは会長に就任致しましてからの三年間に、当初述べましたるの は な 同窓会の活性化が、停滞気味であること、なお改善策が一向に進展しないことなどを考え合わせますと、これらは全て私の責任に帰するところでありまして、どうも再任できるような状態ではないと考えたからであります。

ところが、副会長、役員をはじめとして会員の皆様方からの強い要望もありまして、活性化、改善の推進をはかる方策を会員の方々とともに考え、早急に実現するという条件のもとに再任させて頂くことに決心したわけであります。

まず、るの は な 同窓会の活性化の問題であります。るの は な 同窓会には多くの支部があり、この支部を基盤としてこそ会が成立するわけであります。このためには各支部の縦と横との連携を密にしなければなりません。しかし、支部の状況の把握は、未だ不十分で、とくに支部役員が不明なところも



少なくありません。そこで、先ず、会員数が多い首都圏ブロック会議(仮称)を設立して、情報の交換をはかりたいと考えております。また、立派な会誌を発行しておられる支部もありますので、支部の会報、会誌による情報の交換等を積極的にやりたいと存じます。これには、とくに若年層の会員の方々の活動、活躍を期待致します。るの は な 同窓会の事業として、

最も重要なのは会員名簿と会報の発行であります。会員名簿のほうは、新しく、平成三年度版を刊行できましたことは、担当された役員の絶大なご努力と会員各位のご協力に深く感謝の意を表する次第であります。

会報は、丁度、本号が第百記念号にあたりますが、ここで今日までの歴史を振り返ってみますと、昭和二十七年に発刊され、その後、いろいろな経緯を経て新しい編集

部の発足によって五十号が昭和四十七年七月に発行されたとのことであります。昭和五十一年に新たに改選された編集委員会によって千葉大学医学部同窓会報「るの は な」五十七号が発刊されて、以後ようやく軌道に乗り定期刊行へと進んだわけで、この長い道程には多くの方々の血の滲むような辛苦の跡が偲ばれ、ここに深甚な敬意を表するとともに、今後の指標とすべきと考えた次第であります。

会報第百記念号を期して、今までの経緯を踏まえて、編集委員会の改革をはかり、定期的刊行を厳守するために学内のみならず学外からも委員をお願いして、強力な委員会が成立しましたので、会員各位のご期待に沿うことができると考えております。

私は、再任当初においては、以上の問題を含めて、多くの重要問題を解決するために、同窓会の在り方委員会の発足を考えました。が、屋上屋を重ねる嫌いがありまして、新しい常任理事会がこの解決に当たることが最善であると確信するに至りましたので、こ

承をお願い申し上げます。

最近、医療をめぐる環境は、なお一層厳しさを増しつつあります。とくに低医療費政策は次第に強化拡大へと進捗しつつあり、開業医、公、私立病院ともに異常とも云える状態に追い込まれていくことはご承知のとおりであります。これにたいする対策についても、個々の会員としてではなく同窓の会員が手を携えて対処しなければならぬのであります。

次に、医師過剰の問題があります。とくに千葉県においては、私立大学の病床拡張を目的とした進出は目に余るものがあります。このような状況は看護職員の不足に拍車を掛けることにもなり、地域

るの は な 同 窓 会 総 会 の お 知 ら せ

るの は な 同窓会平成四年度総会は、平成四年六月二十七日の土曜日午後三時より、千葉るの は な 会支部主催にてJR千葉駅四階のベリエにて開催される予定です。総会議事について、千葉大学理学部の西田誠名誉教授に「植物化石に

医療への圧迫にもなりかねません。また、本学としても、ただ黙視するわけにはいかなないのであります。このような医療危機にたいしても同窓会員の一致団結を必要と致します。

以上のような方針を進みたいと思っておりますが、なお多くの問題が山積しております。これらを解決していくには、役員の方々ははじめとして、会員各位のご努力、ご協力を必要と致しますので、よろしくお願い致します。なお、皆様からいろいろのご意見を頂戴致し、より良い方策を検討しつつ伝統を重んじながら理想的な運営をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

祝 平成三年秋 叙勲・表彰

勲五等瑞宝章

坂本健次郎先生 (昭9年卒)

勲三等旭日中綬章

桑田 次男先生 (昭19年卒)

勲三等瑞宝章

津田 豊和先生 (昭19年卒)

勲五等双光旭日章

小林 愿之先生 (昭20年卒)

千葉県文化の日表彰

『警察嘱託医』

渡辺 誠之先生 (昭21年卒)

『衛生部門』

志村 昭光先生 (昭30年卒)

『社会福祉部門』

小幡 五郎先生 (昭36年卒)

『社会福祉部門』

朱 明仁先生 (昭40年卒)

速報欄

について」の講演をお願いし、その後懇親会に移る計画になっております。この案は、四月の常任理事会で最終的に決定して、会員の方々に御連絡申し上げる予定です。で、多数の会員のご参加をお待ちしております。

小俣講師、東京大学教授に就任

千葉大学医学部第一内科学講座小俣政男講師(昭45卒)は、平成四年四月十六日付にて東京大学医学部第二内科学講座の教授に就任される。小俣講師は、肝疾患に関する分子遺伝学的研究による優れた業績を積み重ねて、この度の栄誉を得られた。東京大学における今後の活躍が期待される。

会 計 報 告

平成2年度 決 算 報 告

A. 収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
財 産 収 入	3,300,000円	4,981,872円	1,681,872円
会 費 収 入	6,200,000	8,160,000	1,960,000
事 業 収 入	0	71,000	71,000
寄 附 金	100	500,000	499,900
繰 越 金	3,840,261	3,840,261	0
収 入 計	13,340,361	17,553,133	4,212,772

B. 支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	差異 (△減)
-----	-------	-------	---------

1. 事 業 費

会報発行費	700,000円	0円	700,000円
名簿発行費	0	0	0
新会員歓迎費	300,000	300,000	0
顕彰奨学金	200,000	200,000	0
慶弔費	100,000	59,725	40,275
支部連絡費	300,000	130,000	170,000
小 計	1,600,000	689,725	910,275

2. 事 務 費

備品費	300,000円	282,529円	17,471円
消耗品費	400,000	53,071	346,929
通信印刷費	2,500,000	1,130,805	1,369,195
振替手数料	150,000	168,060	△18,060
会議費	100,000	8,321	91,679
諸手当費	2,500,000	1,898,600	601,400
退職金繰入金	105,000	105,000	0
謝金費	400,000	171,074	228,926
小 計	6,455,000	3,817,460	2,637,540

3. 予 備 費

基金繰入金	3,000,000円	3,000,000円	0円
予 備 費	2,285,361	138,730	2,146,631
小 計	5,285,361	3,138,730	2,146,631
支 出 計	13,340,361	7,645,915	5,694,446
繰 越 額		9,907,218	

基 金 33,000,000+3,000,000=36,000,000円

退職引当金 210,000円

平成3年度 予 算 案

A. 収入の部

科 目	平成3年度	平成2年度	差 異	備 考
財 産 収 入	1,500,000円	3,300,000円	△1,800,000円	
会 費 収 入	6,200,000	6,200,000	0	2,000×3,100名
事 業 収 入	9,000,000	0	9,000,000	
寄 附 金	100	100	0	
繰 入 金	0	0	0	
繰 越 金	9,907,218	3,840,261	6,066,957	
収 入 計	25,607,318	13,340,361	12,266,957	

B. 支出の部

科 目	平成3年度	平成2年度	差 異	備 考
-----	-------	-------	-----	-----

1. 事 業 費

会報発行費	700,000円	700,000円	0円	
名簿発行費	8,250,000	0	8,250,000	
新会員歓迎費	300,000	300,000	0	
顕彰奨学費	200,000	200,000	0	
慶弔費	100,000	100,000	0	
支部連絡費	300,000	300,000	0	
小 計	9,850,000	1,600,000	8,250,000	

2. 事 務 費

備品費	300,000円	300,000円	0円	
消耗品	400,000	400,000	0	
通信印刷費	2,500,000	2,500,000	0	
振替手数料	180,000	150,000	30,000	
会議費	100,000	100,000	0	
諸手当費	2,000,000	2,500,000	△500,000	
退職引当金	105,000	105,000	0	
謝金費	400,000	400,000	0	
小 計	5,985,000	6,455,000	△470,000	

3. 予 備 費

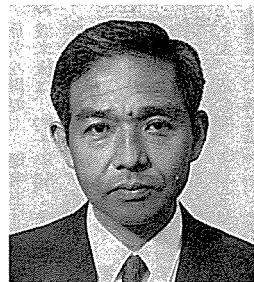
基金繰入金	3,000,000円	3,000,000円	0円	
予 備 費	6,772,318	2,285,361	4,486,957	
小 計	9,772,318	5,285,361	4,486,957	
支 出 計	25,607,318	13,340,361	12,266,957	

基 金 36,000,000+3,000,000=39,000,000

教授就任の挨拶

千葉大学医学部法医学講座教授

木 内 政 寛 (昭39卒)



平成二年三月末をもって定年退官された木村康教授の後任として、三年三月一日付で法医学講座の教授に就任いたしました。初代加賀谷教授が昭和三年に創設されて以来、六十余年にわたり三代の教授により主宰され、私で四代目を数える伝統ある講座であり、大変光栄に存じますと共に責任の重大さを痛感しております。

私は昭和四十年に本学第二外科に大学院生として入学、佐藤博教授の下で外科学のご指導を受けましたが、昭和四十二年より二年間は法医学教室で当時の宮内義之介教授、木村康助教授により白血球型、血液型をはじめ法医学全般のご指導を受けました。その後は昭和四十七年まで第二外科に教室員として在籍しておりましたが、昭和四十八年より法医学教室に転じ木村教授のご指導を受けてまいりました。またこれまでは多くの方々から種々なご指導をいただきました。あらためてお礼申し上げます。

同仁会薬局移転決まる

千葉大学病院の同仁会薬局が、平成五年三月末までに病院敷地外へ移転する予定となった。国立大学病院の第二薬局が病院敷地内に残っているのは、千葉大学病院のほか大阪大病院共立薬局である。同仁会薬局は、来年秋に阪大病院の吹田キャンパス移転に伴い敷地外に移ることになっており、これで国立大学病院の第二薬局問題が解決される見通しとなった。

同仁会薬局は、保険薬局指定更新を来年三月に控え、病院敷地外への移転につき関係方面より指導を受けていたが、昨年末病院外の近接地に移転先の用地が確保でき、薬局建物の設計もできて、来年三月には移転する予定となった。

教授就任のご挨拶

千葉大学医学部微生物学第二講座

野田 公俊 (東大院・昭58卒)



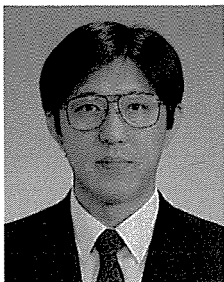
藤教授の卓越した運営手腕により次第に研究設備やスタッフも充実し、現在の活発な教室が出来上りました。

願ひますと、細菌学の研究者をめざして大学院に入学して以来、助手、助教時代と長きにわたり

千葉大学医学部高次機能制御研究センター

附属高次神経分野

木村 定雄 (阪大院昭52卒)



御退官され(現名誉教授)、その後、木村が着任し、新しい体制のもとで動き始めています。

私は、これまで一貫して生理活性ペプチドの系統的検索とその生理作用の解析を続け、内性鎮痛物質オピオイドペプチド、痛覚の神経伝達物質と推定されるサブスタンスP類似の二種のペプチド(ニューロキニンA、B)、心血管系作動性ペプチドのCGRPなどを研究してきました。また、最近

は内皮細胞由来の血管収縮因子であるエンドセリンと血圧調節の関係を重点的に研究しております。生理的に重要な物質の化学的解析のアプローチは、薬理学・生理学的解析(基礎)や薬物の開発、病気の発症機構解明(応用)に物質的基盤を与え、基礎と臨床の架け

平成三年三月一日付で高次機能制御研究センター高次神経分野の教授に久我哲郎教授の後任として就任致しました。当研究室はセンターの一分野として、昭和六十三年度に発足しましたが、時限付きセンターの二代目教授として、その責任の重大さを痛感しております。久我教授は神経薬理学、特に神経筋シナプス伝達の研究領域で数多くの先駆的業績を上げてこられました。平成二年三月に

効かない病原菌の出現や海外旅行者による新たな病原菌の国内持ち込み、さらにはこれらの感染症の病態、発症機構そして治療等に関する研究など、多くのなすべき諸問題が山積しておりますが、諸先輩が築かれた輝かしい学問的流れを継承しつつ、若い人が充分活躍し成長できるような場をつくり、教室の発展に鋭意努力する所存でありますので、どうか今後とも皆様方の御指導御鞭撻を心よりお願い申し上げます。

橋を築くと考えております。

当研究室の研究課題として、これまでの(一)中枢神経回路網の実験数値解析(渡辺助教)、(二)ウシ脳コर्ट小胞の薬理学的生化学的研究(諸井助手)、(三)消化管平滑筋の神経性調節機構の解析(西山助手)に付け加えて、新たに(四)血管収縮因子、エンドセリンの産生制御と血圧調節機構の研究、(五)未知の血圧調節因子の検索、(六)未知の生理活性因子の検索を行っております。新体制での研究がスタートしてまだ日も浅いのですが、多数の生体成分が既知の機能や現実の疾患と、また他の成分とどのような関連しているかを循環器、内分泌、中枢神経の諸領域で明らかにしたいと意欲に燃えております。次世代を担う若い研究学徒と共に、全力を尽くしたいと考えております。ゐるのはな同窓会の皆様のご指導ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

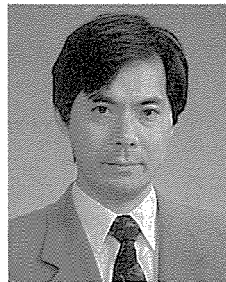
◆ ◆ ◆

千葉大学医学部
附属高次機能制御研究センター

発達生理分野

清野

進 (神戸大昭49卒)



平成元年三月に退官された萩原彌四郎教授の後任として、九月一日付で、シカゴ大学医学部内分泌学部門(準教授)より高次機能制御研究センター発達生理分野教授に就任致しました。大変光栄に思

います。私は、昭和四十九年神戸大学医学部卒業後、四年間は臨床医として診療に従事致しました。昭和五十三年より、京都大学医学部第二内科井村裕夫教授のもとで、糖尿病を中心とした内分泌学の研究を開始し、昭和五十七年から渡米後は、約十年間、ミシガン大学、カリフォルニア大学サンフランシスコ校、シカゴ大学で、糖尿病、内分泌疾患の成因、病態について、分子生物学、分子遺伝学的アプローチにより取り組んできました。その間、インスリン受容体遺伝子の構造決定や、その異常による糖尿病の症例を初めて報告し、また、種々の糖輸送担体cDNAsや遺伝子のクローニングを行い、糖の細胞膜輸送の分子機構について研究を行ってきました。

日本では、まだ、分子医学

(Molecular Medicine)という概念は一般的ではありませんが、これは、疾病の病因、病態を分子生物学、分子遺伝学の手法を用いて分子レベル、遺伝子レベルで解明し、遺伝子工学の技術を用いた治療をめざそうという、極めて新しい分野です。同時に、臨床医学、基礎医学の接点に位置し、どちらの分野からも研究に参加できるという、魅力的な領域でもあります。

現在、遺伝子病、分子病の研究がさかんになりつつあり、この分子医学の必要性が高まること予想されます。今後は、主として、インスリンをモデルに選び、ホルモンの分泌、作用における情報伝達系を分子生物学的に解析し、我が国ですべて三〇〇万人を越えたとされている糖尿病を中心として、代謝、内分泌疾患の病因、病態を分子レベル、遺伝子レベルで追究したいと考えております。御承知のように、サイエンスの進歩は、人的、経済的資源の確保はもとより、自由な発想、新技術の導入、人一倍の努力、自由な議論などが必要ですが、このような研究環境づくりを目標として、医学の進歩に少しでも多く貢献出来ように、当部門のスタッフ、学生、大学院生諸君とともに、一生懸命に努力する決意しておりますので、皆様の一層の御指導、御支援をお願い申し上げます。

教授就任のご挨拶

千葉大学医学部脳神経外科科学教室
山浦 晶 (昭和40卒)



この度、平成三年十月十六日をもって、脳神経外科科学講座を担当させて頂いたことになりました。初代牧野博安教授につぐ二代目として、責任の重大さを痛感いたします。

脳神経外科教室が開設されたのは昭和四十六年一月であり、すでに二十余年の歴史をもっており、この間牧野名譽教授を中心として、外傷の研究がおおいに進められ、重症頭部外傷に対する広範囲減圧開頭術は多くの患者を救いました。その後、大学の研究室では外傷を受けた脳の代謝や循環の研究が綿々と続けられており、今後も着実にすすめてゆく予定です。一方では、脳血管障害の研究、特に破裂脳動脈瘤の治療の研究は私自身のライフワークのひとつでもあります。今後は脳動脈瘤を「破裂前」に発見し治療する方向にも研究はすすめられるでしょう。

脳神経外科領域は十年前には考

千葉大学医学部第一外科学講座

中島 伸之 (昭36卒)



痴呆の治療等に大きな期待が寄せられております。脳神経外科医は今後は臨床のみならず、基礎的研究の進歩にこれまでに上質献しなくてはなりません。米国では二十一世紀までの十年間を「脳の時代」として、研究をすすめています。かつて米国には脳神経外科を学ぶでしたが、今後はともに研究をすすめる時代になったと考えております。

今後とも皆様のご指導をよろしくお願い致します。

この度、平成四年一月一日付けで第一外科学講座を担当致すことになりました。本学医学部の内にも、第一外科教室の歴史はとくに古く、初代三輪徳寛先生により教室が開設されましたのは明治二十二年に遡ります。先代の奥井教授まで六代の教授が就任されましたが、その間既に一〇〇年以上の歴史を有することになります。改めて自分自身の責任の重たさに身を引き締まる思いが致します。

私は、本学を昭和三十六年に卒業致し、その後大学院を経て、第一外科教室の医局員となりました。増加し、その知識の普及もめざましいものがあります。この領域に対する外科治療の症例も昔に比べると随分と増え、その治療成績も向上、安定化しています。千葉県自体をみても、循環器外科を行っている施設は増えてきており、それに対する外科医の供給は不足がちであるのが実情のようです。又新しい動きとして、近い将来に県立の循環器病センターの設立・発足も決定しています。私は長い間、大阪で循環器外科医として仕事をし、参りましたが、改めて大学に戻りました以上は、大学の、そして千葉の循環器外科の一層の発展のために努力するのが、私に課せられた義務の一つであろうと考えています。今迄の第一外科の伝統である一般外科と新しい循環器外科を車の両輪のように調和を計りつつ、より以上に押し進めて行きたいと念じております。

大学の使命は、診療・研究・教育に携わり、それぞれの分野で指導的な役割を果たすべきことは自明の理ですが、実際に大学の内をみてみると、診療とくに外科にいたれば手術とそれに伴って卒業教育に多大な制約があるように思えます。これらは基本的なことで解決方法も難しいのかも知れません。大学の内の枠だけで動くには限度があるように思います。これからは大学は充分な設備と診療レベルを持って、ともに発展して行く体制作りが必要であると感しています。同窓の諸先生方の御理解、御支援を宜しくお願い申し上げます。

各地ゐのはな会だより

横須賀ゐのはな会

同会は、さる平成二年五月十二日、市内ホテルセントラライザで開催された。

会長の久富良次(昭12)は、近著「光と影」で、写真作品と共に眼科医の半世を興味深く語られています。

長寿会員森本一善(昭3)は、益々ご壮健で、本年六月初旬、卒寿記念書展90を開催された。極めて盛会であった。先生は現在、ロケットクラブ名誉会員で、三浦市「第九を歌う会」会長もされ、まさに自適優游である。

毎年、絵を画きに外国旅行される齊藤宗寿(昭16)、当地産業医の嚆矢と自他共に認められる関尾秀一(昭20)、浦賀病院長の大和田



群馬ゐのはな会

平成二年十二月六日、同窓会副



耕一(昭23)、聖ヨゼフ病院内科の国府田幸夫(昭24)、神奈川歯科大の木本 浩(昭24)、防衛大学医務課長の天野 茂(昭27)、医師会理事の青木太三郎(昭28)、湘南の海にクルージングを楽しまれる大原 夫(昭29)、今春自衛隊横須賀病院長を退職し、地元の病院理事長として活躍される川口幸夫(昭32)らの出席があった。

なお、横須賀ゐのはな会は伝統的に、医薬合同で開催しているの、同日は、薬学の大先輩、中島熊雄、今村忠夫、安藤吉治、鈴木次郎の諸先生のご出席があり、楽しい一タであった。幹事の関尾先生に感謝申し上げます。(青木太三郎(昭28)記)

台東るのはな会

東京都心のるのな会は親睦の中心を「東京をエンジョイする会」に置いて、先ず手初めに歌舞伎鑑賞を五年前から毎年一月に浅草にかかると歌舞伎を浅草公会堂に愛で、その後味自慢のお店へなだれ込みグルメしています。

今年の出し物は「世話情浮名横櫛」(お富興三郎)だったので宴席の余興として興三郎の声色の講習と春日八郎歌う「お富さん」の合唱をしました。(平成三年一月十五日)

この文を見て参加希望の方は台東区民の内外を問わず十一月迄に連絡して頂ければよいお席を確保します。

集まる面々は佐藤保雄(昭6卒、浅草医師会裁定委員)、池田脩三(昭6卒)、佐方孝夫(昭20卒元浅草保健師所長)、清水長世(昭24卒元下谷保健所長・都立駒込・豊島・駒込(病)・荏原病院と伝染病・感染症領域一筋感無量)、服部了司(昭27卒)、小川源太郎(昭27卒浅草中学校校長・特別養護老人ホーム浅草整形外科嘱託医)、古沢昇(昭27卒元浅草医師会理事・グレルメ会場世話人)、梅沢英正(昭28卒「年々歳々人不同」日々を大切に)、上木隆人(昭46卒台東区衛生部保健衛生課勤務公衆衛生)、毛塚将吉(病理・眼科)〔小川卒太郎(昭27年)記〕



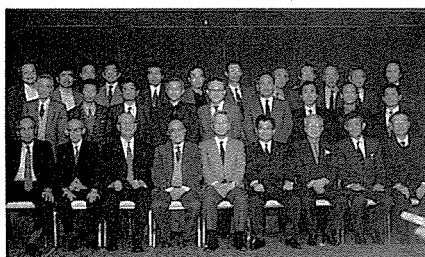
講演会に先立ち今年の総会で鈴木会長が辞意を表明され、新たに君津中央病院院長唐木先生が会長に選出された。

続いて懇親会では長老の横須賀先生のご挨拶、葉丸先生の乾杯等が始まり、教授と四十名の会員と和やかに進んだ。

当地区は袖が浦町が四月から市に昇格、三市一町の君津都市の名前も変更になる予定で、木更津、君津の丘陵地に上総アカデミアパーク構想の第一期工事が三月三日に行なわれ、東京湾横断道路などをアクセスに見込んで首都圏の新研究都市の建設がスタートした。約十年を単位に「胎動期」「発展期」「成熟期」の三期に分け約三十年をかけて開発する予定で県下でも最も注目されている地区の一つである。この変化の激しい地区の医療に今後どう対応していくか医師会を中心に関係者の知恵と協力が試されている。(幹事 神田 芳郎(昭34卒)記)

木更津るのはな会

平成三年二月十四日に呼吸器内科、栗山教授をお迎えして「ヒマラヤと呼吸器疾患」というユニークな演題で「講演を頂いた。また千葉大の呼吸器内科の生い立ち、県内の関連病院などにもふれ、若い教室のこれからの展望を話された。



平成三年二月十四日 木更津地区 るのな会

中京るのはな会

平成二年度中京るのはな会が平成二年六月十六日(土)午後六時より、恒例の納屋橋・鳥久で催され



長野のはな会

るのな同窓会長長野県支部総会は、平成三年六月十五日(土)長野市美穂華飯店にて開催された。母校からは退官された前学長の井出源四郎先生と小児科教授の新美仁男先生をお招きした。現在会員数は九十八名「正八十七名・賛十一名」である、今回出席者は三十名で信州大学第一病理教授重松秀一先生も出席された。新支部長の熊谷信夫先生の開会の辞および挨拶のあと、物故会員へ黙祷を捧げた。宮坂齊先生より会計報告がなされ、ついで講演会にうつった。井出先生には毎回御出席頂いていて、今回も大学の近況について、特にここ数年の間教授が多数交代されたこと、またモノレールの医学部敷地内通過の中止などについてお話しいただいた。新美先生からは「学校検尿からみた糖尿病」と題する御講演で、小児糖尿病の



長野市美穂華飯店 平成三年六月十五日

埼玉のはな会

平成三年九月八日(日)るのな同窓会埼玉支部総会を、浦和市文化センターにて開催いたしました。出席予定約五十名のところ、当日台風にて、風雨強く如何かと思われましたが、三十四名の熱心な方々の御参集をいただき盛会のうちに終わりました。

大正十二年卒高橋貞助先生他五名の物故者の黙祷に初まり、千代倉俊夫支部長の挨拶、会計会務報

三浦(昭46卒)先生、山口(昭50卒)先生(岩間 汪美(昭43卒)記)

早期発見に対する長い間の取組についてお話しいただいた。講演会のあとは、百瀬先生の乾杯の音頭で懇親会に移り、中国料理と中国のお酒を飲みながら旧交を温め再会を約して散会した。

出席会員：百瀬孝史(昭6卒)、小林恒一(昭16卒)、小西義男(昭23卒)、田崎裕一(昭24卒)横川 稔(昭26卒)、今井良夫(昭26卒)、有吉 徹(昭27岩大卒)、武市 享(昭28卒)、熊谷信夫(昭28卒)、島田 勉(昭31卒)、菅谷健彦(昭33卒)、野口 徹男(昭34卒)、春日建邦(昭34卒)、山上欽也(昭36日大卒)、野本高志(昭38卒)、重松秀一(昭39卒)、岡野照美(昭39卒)宮坂 齊(昭42卒)、笠井愛陵(昭42卒)、内藤 威(昭48卒)保坂亜里沙(昭48卒)、秋谷 徹(昭50卒)、峯村善保(昭51卒)小林敏生(昭53卒)、繁田達也(昭55卒)、中沢 功(昭57卒)今野 慎(昭62卒)、吉村光太郎(平2卒) (内藤 威)記

告、済陽先生の幹事兼任。ついで、「米寿」河野秀夫、永田善久、「喜寿」新藤清司、千代倉俊夫、小畔義之助、峰岸一雄、丸山俊男、「藍綬章」小畑親の諸先生方のお祝がありました。つづいて、千葉大学公衆衛生学教授、安達元明、筑波大外科教授、岩崎洋治先生の御講演を賜り、安達先生には、学内事情又、千葉大発展の最新パンフレットをいただき、その上、後日専門研修医募集要項をお送りいただきました。又、岩崎先生には「蔵器移植その愛、法、倫理」なる書籍を出席者一同にいただき、感銘深きものでありました。六時よりホールにて、懇親会があり、和気あいあいのうちに閉会いたしました。(石井邦夫記)



千葉大学あいのな会、埼玉支部同窓会、高松文化センター、平成3年9月8日

神奈川あいのな会

平成三年度神奈川あいのな会総会および懇親会は、平成三年六月十五日、ホテル・リッチ横浜に於いて行われた。

総会は、原紀道(昭三十八)の

司会のもと、挨拶、物故者(七名)の報告およびその冥福を祈つての黙祷、続いて、野呂(昭三十四)より平成二年度決算報告、森豊(昭三十七)より平成二年度決算報告があり、全会一致で承認された。また、会長より会員相互のコミュニケーションの強化、会報三号の発行などを含む平成三年度の活動方針、その他について諸提案があり、了承された。

特別講演には、千葉大学学長・吉田亮先生の御来賓をいただき、現在の大学教育の直面している種々の問題点、医学教育の臨床、研究、社会の三つの面における「いわゆるearly exposure」などについて、貴重な数々の御教示を賜った。

最後に副会長 小林賢(昭三〇)の閉会の辞があつて総会を終了した。

地区幹事(川崎地区：竹内土郎・昭十八専、松尾成久・昭二十九横濱地区：天野勝弘・昭四十一横須賀地区：関尾秀一・昭二〇、青木三郎・昭二十八、県央地区：横山哲夫・昭三十四、湘南地区：矢野恒多・昭三十四、原紀道・昭三十八、西湘地区：福田淳・昭四十一、平塚大磯二宮地区：佐藤昇一・昭二十四、津田康之・昭二十五)の諸先生の御尽力もあり、また、開催日を、「毎年、六月の第三土曜日」と固定してスケジュールの調整をしやすいこととあつて、昭一〇の中村卓二先生を筆頭に、昭十三の杉谷栄助先生、昭十五の田中洋先生、昭十六の中島博太郎先生をはじめ、平成



昭和三十八年九月五日、平成三年度九州同窓会総会、大分県大分市

クラス会だより

九耀会例会

(昭11卒)

昭和九年入学のクラス会は千葉家の家紋の九曜星に因んで九耀会と申しますが、毎年春秋二回、母校の学長、医学部長、名誉教授をお招きして集めています。

平成三年秋は十月十九日、防衛庁のグランドヒル市ヶ谷の萩の間で小林龍男名誉教授、井出元学長

昭八会クラス会

(昭12卒)

本年の昭八会(昭和十二年卒)は、東京上野公園精養軒に於て、平成三年五月十九日(日)に開催した。出席者は十八名(会員十二名、夫人六名)で、この一年の間に惜しくも逝去された恩田光明兄(平二・六・二八)、水野秀一兄(平二・七・一〇)、境 好雄兄(平二・九・一七)、千葉保次兄(平二・一・二三)、大友武博兄(平三・二・二七)の五名の級友を加えて四十七名の物故会員の御冥福を祈つて黙祷を捧げた後、上海在住の孔禄卿兄から五月一日日に届いた航空便の文面を披露した。小沢達也兄の乾杯の音頭によって宴に入り、精養軒のフランス料理を賞味しながら、若かりし日の思い出などを語り合い、千葉医科大学卒業以来五十四年を過ぎて、お



をお招きして歓談した。

席上井出先生から最近の中国情勢について余り知られていない興味深い御高話を拝聴した。

前列左から名尾良憲、杉谷栄助、小林先生、井出先生、熊谷利雄、武藤三男、後列、鴻忠義、土屋隆義、神谷博達、百瀬剛一、石村貞雄

(鴻記)



平成3年5月19日、千葉大学医学部、昭八会、於：大分県大分市

いざよい会

(昭16・12卒)

大東亜戦争勃発直後、最初の繰上げ卒業で「るのな会」を去って早五十年になる。

全く消息不明の、広東中山大卒の陳希聲君(前斗入学)を入れて八十名卒業のうち、現存会員は三十九名である。

卒業五十周年記念の会として、色々考えたが、結局都内での会に落ちつき、平成三年十月五日(土)の午後一時から三時半の遅い昼食を取つてのアウトホームな懇親会となった。

場所は、若者の街原宿(今回初めて来たという人が多かった。)のレストラン「トスカナ」(地中海料理)の、落ちついた雰囲気、卒業当時のナツメロをBGMで流して気分を盛りあげた。

バイキング形式の食事で大いに飲み、且大いに語つての実に楽しい時間だった。

今は亡き級友の奥様方が、花を



千葉会北海道旅行
昭和十六年三月三日

三葉会北海道旅行

(昭和19年)

わが三葉会(昭和十九年)は、四年前に、池田 裕君のお世話で、伊豆長岡に集まって以来、鳴りをひそめていたが、この間、昭和六十三年九月には、白髪碩学の林一郎君(千葉)を、平成元年九月には、かつて一族を挙げた三葉会の台湾旅行を実現してくれた温顔の郭 来春君(新竹)を失ったのは、痛恨の極みである。

このたびは、文屋 卓君のお骨折りで、平成三年九月二十一日(土)から二十三日(月)にかけて、待望の北海道旅行を実現し、旧交を温めた。

第一日目の午後、千歳空港に集まったのは、佐々木芳岡夫妻(甲府)、島野興司夫妻(千葉)、池二郎夫妻(佐倉)、池田 裕夫妻(三島)、赤松弘光夫妻(大田)、長嶋豊晴夫妻(市原)、文尾 卓夫妻(芦別)、夫に、村島正博君(飯坂)、山崎 衛君(江東)、亘威君(千葉)の十名の会員と七名の夫人計十七名である。

まず、千歳から白老のアイヌ民族博物館を訪ね、雨をついて登別温泉第一滝館に投宿、盛大に懇親会。第二日目は、秋晴となった、昭和の山に向い、有珠山ロープウェイに乗り、洞爺湖温泉の万世閣で昼食。ニッカウイスキー余市原酒工場を見学。石狩湾岸に出て小樽の北一ガラス三号館に立ち寄り、札幌のホテルニューオータニに投宿。同夜は、「浜蒸」でカニ料理を堪能した。ここで参加者一

同が色紙に書きとめたひと言を掲げる。

健康第一(池君)。老人にならんとするものが老人医療(赤松君)。北海道の酒うまし(池田君)。いつも元気で楽しく送ろう(佐々木君)。生涯現役(島野君)。一病息災(村島君)。自然は北海道にまざるものなし(長嶋君)。山高水長(山崎君)。人々に札幌の月円かなる(亘君)。北国の空気は美味(文尾君)。

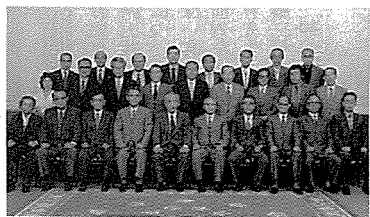
第三日目は、朝食後、次回幹事を島野興司君と決め、自由解散。

思えば、白老のコタンで聞いたアイヌの女達の哀愁に満ちた歌声、雨の登別の湯煙、澄み切った秋空に吸われてゆく昭和の山の新山、洞爺湖、有珠山の絶妙な展望、有珠山頂をかすめる矢の様な秋雲、余市のニッカウイスキー原酒貯蔵庫の前に咲く真紅のナナカマド、小樽の運河とガラス工場に群がる人の波、そして倦くことのない札幌のカニ料理等々、気心を知りつくした仲間とのツアーは、正に人生のオアシスである。(長嶋豊晴)

七葉会

(昭和25年)

卒業四十周年を記念しての七葉会(千葉医専昭和二十五年卒)が、晴天に恵まれた平成二年六月二十三日(土)午後四時過ぎから、浦安のオープン早々の東京ベイホテル東急で開催された。当日の出席者は四十二名(中宿泊者十二名)で、まあ、数の上で



は一応成功と言えるだろう。

会には山崎(義)の司会、川村の挨拶、青木の乾盃で早速、酒宴に移り、各自の自己紹介を兼ねた近況報告等極めてなごやかに進んだ。特に山崎(義)のお世話でアトラクションに三笑亭笑三師匠をお招きしてあったので、師匠登場の頃は適当に酒も廻って、場内笑声が絶えなかった。結局、久しぶりの再会に意気の上った一同は、来年もやろうと云うことになり、明年は六月、東京で開催することに決定。七時半すぎ名残を惜しみつつ散会。かくて卒業四十周年記念七葉会は盛會に終了した。

最後に今回の七葉会開催に際し、幹事役でいろいろ御苦労願った、青柳・円城寺・粕谷・木内・桑原・中村(義)・山崎(義)・川村の諸氏に心より感謝する。

以下出席者氏名
青木、石川、伊藤、市川(義)、井上、河崎、榊原、神原、木内(義)、木村、菅沼、杉田、高木、中沢、中島、中田、中山、山崎(義)、山口、今井、川島、粕谷、川村、中村(義)

八千会記念総会

(昭和26年)

山崎(義)、円城寺、柴崎、島田、部夫妻、後藤夫妻、佐藤夫妻、原木、船曳、宮内、青柳、木内(義)、桑原、鎌田(順不同、敬称略)
(川村純 記)

去る平成三年四月二十八日(日)十八時三十分より、ホテルニューツカモトに於いて八千会四〇周年記念総会が開催されました。森豆敬会長、大田和明幹事並びに千葉市在住幹事、小関芳昌、大沢弘和氏らの行き届いた采配により、来賓として卒業時のクラス担任であられた百瀬剛一先生をお迎えし、二十名の会員出席のもとに、豊かに旧交を温めることが出来ました。まず、小関幹事の司会により、物語者に対する黙祷をもって総会のセレモニーが始められました。八千会は卒業時間窓生四十五名でしたが、この四〇年間に七名を天国に送り、現在員三十八名、従って五十八%の出席ということになります。型通りの総務報告、会計報告が承認された後、続いて懇親会に移りました。

司会は大沢幹事に変わり、沖繩から駆けつけられた藤江良雄兄の発声により乾杯、しばし歓談の後、百瀬先生のお元氣な挨拶を皮切りに、会員の近況報告が次々と行われるなか、飲み、食い、思い出に浸りつつ、笑いと感嘆のうちに楽しい時を過ごしました。四〇周年ということもあって、八千会の名付親ともいふべき成田一郎兄から、「八千」は「はせん」と読み、「破



船」を意味していること。学生時代、第二次大戦の影響をもちに受けて、日本各地から集まり、支え合ってきたクラスであることが紹介され、再確認されました。

記念品として、磁気カードホルダー付の財布が配布され、末永く御愛用の程をとの会長の御披露がありました。

翌二十九日は、宿泊地千葉ワシントンホテルから、マイクロボスを利用し千葉観光としましました。生憎の雨の中、参加者十二名、市内に詳しい森会長の名ガイドで、まず千葉ポートタワーへ、次いで市立海浜病院、幕張メッセと廻わり、再び旧市街へ戻り、千葉大学附属病院、青葉の森、千葉県中央博物館を見学、国立千葉病院を経て千葉駅へ。皆んな元気で、また来年合おうと誓い合い散会致しました。折しも雨が上り、春の陽が射し始めました。
(広報・石川鉄男)

昭和二十九年卒 クラス会開催

例年になく猛暑の続く平成二年七月二十八日(土)午後六時より、恒例の千葉大学医学部第二十九回卒業生の同窓会が、千葉市中央に新設されたサンガーデン十七階の四川飯店嘉賓閣において開催された。集まったのは同業者四組を入れて総勢四十四名。

わが級会は毎年一回(隔年に千葉市で開催)行っているが、今年は千葉市在住者が当番で、島崎淳教授(泌尿器科)を幹事長とし、大学病院在職者が幹事となって行われた。

まず、島崎幹事長から開会の挨拶とこの一年間の級会員の動向や大学病院の現状等が報告された。ついで、大学病院に新たに増築された手術部、高気圧治療装置、視聴覚研修室等につき樋口がスライドを使って簡単な説明を行った。増築された手術部の二階に床面積九十㎡の無菌手術室(国立大学病院としては最大で、中の設備も新しい)が造られ地下一階には高



昭和29年千葉大学卒業同窓会 サンガーデン嘉賓閣 4.7.1.25

気圧治療装置(第二種・大型)が設けられ、主室十名、副室四名の合計十四名が同時に治療ができ、大ききでは名古屋大学病院の装置について第二位ではあるが、設備は日本一であり、潜水病、一酸化炭素中毒、突発性難聴、イレウス、末梢循環障害等の治療が行われている。さらに、副室は1570mmHgの低気圧状態(高度一万米に相当)を作ることができ、本学の山岳部の医師達(呼吸器内科・第二生理)が、エベレスト登頂等を目ざして実験を行っている。また、同じ地下一階に視聴覚研究室が設置され、ここでは全手術室で行われている手術野のビデオと患者監視装置による患者の状態を同時に見ることができ、最新式のシステムが導入されており、学生や見学者が手術室内に入らずに済むことから、手術室を高度の清浄度に維持することができ、また学生および新医師の教育にも極めて有用であるというようなことが話された。

還暦を迎えてこれからの人生を如何に過ごそうかというようなことをふと思ひ勝ちな我々ではあるが、老化現象に対する高気圧治療がその改善に有効であるとの話に皆興味を持たれたようであった。その後、前回の幹事長で最年長の富岡清海先生(御前崎に開業)の音頭で乾杯を行い、酒宴に入った。体内のアルコールの濃度が高まるにつれて会にもぎやかなり、同伴のご夫人方も交えながら昔話に花を咲かせ、和気藹々のうちに午後十時頃、大藤正雄教授(第一内科)の閉会の辞をもって終宴となった。

なお、次回は来年、筑波大学の岩崎洋二教授(消化器外科)を幹事長として茨城県付近在住者が幹事となって行われることになった。

(樋口道雄記)

三 一 会 (昭和31年卒)

我々昭和三十一年卒の同輩も、もうそろそろ還暦を向える年令となった。皆、医師というものの人生を实践してみ、夫々の人生観というものを持つ年令になっていくと思う。

毎年の集りではあるが、今年は四月にアメリカ、メリーランド医師会副会長の中沢孝兄の来京の会があったばかりなのに、今回も二十四名の同輩が集った。この年令になると、一年一年が大切になり、仲間と会うということに独特の味があるもので、会うだけで何んとも云えぬ感興が湧いてくるものである。

今回は、国立病院管理研究所長の北川孝兄に、新医療法を中心とした医療全般についてのお話をお願いした。同輩からも色々と質問があり、活発な会となった。未だ未だ、医療の担い手は我等であるという感じである。

我がクラスは大学教授、国立病院、公立病院の院長、副院長、公的医療機関の長として活躍しているものが二十四名と多く、そのうち、蟹沢成好、上原すず子、庵原昭一、森博志、山崎武、佐藤直義、



西沢護、北川定謙、山野元、高野昇の諸兄が出席した。皆、困難な今日の医療現場の中核で活躍しているようである。一方、春秋会を中心とした開業医の連中も内容ある人生(クオリティ・オブ・ライフ)を追求しているようである。

今回は、神奈川県関係の高野、志村、山口(○)が幹事をしたが、次回の上野、北川君を中心とした埼玉勢が幹事をしてくれるそうだが、西原源太郎君がクラスの名簿の管理をしてくれることになった。来年も楽しい会が開かれることを期待して散会した。

(昭和31年卒 山口慶三記)

昭和三一會 (昭和31年卒)

昭和三一會は現役組が一九三一年度に生まれ、昭和三十一年に卒業した。つまり、平成三年度は全員が還暦を迎える。

平成三年七月二十日、後樂園庭園隣の日中友好会館で、幹事北川



定謙、上野恭一両名が設営した。クラス八十名のうち還暦を迎えることなく物故されたのは五名。会の冒頭に黙祷を捧げた。いいヤツばかり死んだ気がする。

北川幹事のスピーチ、ついで三一会本部長山口豊君の会計報告と乾杯までは静かだったが、各自の近況報告あたりから、参加者三十四名全員がワイワイガヤガヤ。遂に小生は閉会の辞を断念した。幹事役を初体験して、非常に緊張したが、諸兄姉の立ち去り難い風情を拝見して満足した。

(上野恭一記)

三五會 (昭和35年卒)

昭和三十五年卒のクラスは、平成二年三月で卒業三十年を経ることとなり、去る三月十日ホテル・サンガーデン千葉で四十三名が、それに翌日の袖ヶ浦でのゴルフコンペ(十六名)で新たに一名が加わり総勢四十四名が集まった。

卒業三十年ともなれば、人間が枯れて来た所がこれといったイベントも思い付かず、植樹をするにも本学でははや植える場所もないので、いのはな奨学会に百万円を寄付することとした。但し本会の準備会では寄付者が意図するようには使えないかという意見が出された。会では名誉教授のどなたもお招きせず、年と共に話しが長くなってきた各人が近況を述べただけで時間が終わった。

ゴルフコンペでは写真を撮ったが(写真)、会では三橋 稔君がスナップ写真を撮った外には記念写真は撮られなかった。出席者全員の名を掲げる。浅野佳徳、市村公道、岩瀬秀一、植松貞夫、宇田川啓二、内西兼一郎、大井利夫、大川澄男、海保 允、軽部富美夫、神田 敬、草野史朗、河野信夫、河野 安、小林康弘、小山 明、佐伯陳哉、神原秀三、貞永嘉久、佐藤研一、佐藤重明、佐藤南夫、嶋田 裕、沈 重博、館野 翠、千野宗之進、中田益久、永島敏士、成田静子、西川侃介、野口 愼、長谷川鎮雄、長谷川雅朗、藤村真

示、紅谷 周、堀田とし子、堀江武、真島吉也、増田善昭、三橋稔、村田光範、谷嶋つね、山崎英雄、横山孝一 (藤村真示記)

昭和四十四卒 クラス会開催

平成元年六月二十四日土曜千葉市ニューカモトホテルにて昭和四十四年度卒業生による二十周年クラス会が開かれました。御多忙のなか八名の恩師の先生に出席頂き、同級生は五十五名が参加し楽



しい賑やかな会になりました。橋場君の司会で会が始まり、最初に先生方のスピーチをお願いしました。どの先生も多少更けられましたが、懐かしいお声を聴き学生時代の授業風景が思い起されました。トップには川喜田先生、続いて米沢先生、百瀬先生、相磯先生、桑田先生、横川先生、佐藤博先生、最後に永野先生がそれぞれ楽しいスピーチをして頂きました。

た。お身体のすぐれない先生もお見受けし、病軀を厭わず出席して下さったことに只々感謝申し上げる次第です。

続いて幹事を代表して私が謝辞を述べ、神津君から大学の現況と記念植樹したごしの木とをスライドを使用して披露しました。後半の司会は浅野君が受け持ち一次会はまたたく間に終り、同ホテルの源氏で二次会が開かれました。ほぼ全員が出席で一人ひとり現況報告をしながら歓談に話はずみしました。

三次会は会場が狭かったため入り切れない人が出たのが残念でしたが、皆が話が終らない、時間が足りないという声を耳にする度に幹事として申し訳ない気持ちになりました。

次は朝から夜までクラス会にしたら良いのではと思つてます。今回は女性の参加者が多く七名を数えました。今までのクラス会には男性ばかりでしたので彼女達にも楽しいクラス会になったと自負しています。

翌日は高根君の幹事で十二名が参加し、源氏山カントリークラブでゴルフコンペが行なわれ土川君が優勝しました。

この会を記念して堀江君・林崎君の手で立派な二十周年記念誌が発行されました。なかなか原稿が集らず御苦勞様でした。

最後に出席されない人達からも多くの御寄付頂きましたことを厚く御礼申し上げます。また幹事のなかで中心になって準備にあたられた石川君に感謝申し上げます。

昭和四十五卒 クラス会開催

我々昭和四十五年卒業クラスは、全国的に吹き荒れた学園紛争時代に学部生活を送り、インター



ン制度廃止、医局改革運動の流れの中、全学大学、団交、全学ストライキ等に明け暮れ、学四の一年間はストライキのため殆ど授業がなく、卒業式も行われなかった。全学スト解除・卒業への過程での後遺症も加わり、卒業後学外に出

た者が多く、第一回のクラス会開催までの時間も多くの要した。今年は卒業後二十年目の節目にあたり、また、寺沢捷年君が富山医科薬科大学と漢診療部教授に就任し、その祝賀会も兼ねて、七名の恩師の先生方に出席をいただきました。

まず、在学中にクラス担任として大谷克己名誉教授をお迎えして平成三年九月二十八日(土)千葉市ホテルサンガーデンにて開催されました。開催の案内は昭和五十年卒のみならず、入学してから卒業するまでの間に一緒にクラスに属した者全員に出した。出席者は五十一名。

にて第四回のクラス会が開かれました。会は初めに、吉田亮学長に挨拶を戴き、次いで井出源四郎前学長のご発声で乾杯をおこなった。暫し歓談の後、萩原武四郎(前脳研)、奥井勝二(二外)、大藤正雄(一内)、永野俊雄(二解剖)、高橋英世(小児外科)の先生方に、二十年前の思い出を交えお言葉を頂戴した。我々のクラスは在学中、黒山宏志君、西林聰武君の事故故があり、大学紛争とともに恩師の先生方には印象に残るクラスであったとお話であった。

会なかばで、クラス第一号の教授となった寺沢君に、出席者よりのお祝いの懐中時計が、今や有名なシャボン歌手となった宮園千代子(旧姓藤田)君より贈呈された。二十年ぶりの顔も見受けられ、遠く岩国市や吹田市からの参加もあり、出席者は三十七名を数えた。各自順番に近況を報告しあい、四十三階の高層から夜霧にけむる副都心の明かりを見ながら、旧交を温めあった。(幹事野口健太郎、清陽高穂、湯原幹男記す)

五〇クラス会

(昭和50卒)

大谷克己名誉教授をお迎えして平成三年九月二十八日(土)千葉市ホテルサンガーデンにて開催されました。開催の案内は昭和五十年卒のみならず、入学してから卒業するまでの間に一緒にクラスに属した者全員に出した。出席者は五十一名。

まず、在学中にクラス担任として大谷克己名誉教授をお迎えして平成三年九月二十八日(土)千葉市ホテルサンガーデンにて開催されました。開催の案内は昭和五十年卒のみならず、入学してから卒業するまでの間に一緒にクラスに属した者全員に出した。出席者は五十一名。

で大変お世話になった恩師大谷先生からお話をいただいた。先生には最近歴史の研究をなされているということであった。乾杯の後、出席者全員の近況報告スピーチとなったが、開業、病院勤務、大学に残っている者など卒業十五年の年月を感じさせられた。久しぶりに会う顔に話がつきず、二次会(五味鳥など)でも大いに盛りあがった。



卒業十年めの第一回クラス会に続き今回は第二回であったが、五年おきではなくもっと頻回に開催するようにという意見も出された。次回幹事は安東、上田(馬場、宮崎)の諸君にお願いした。(幹事：秋草、篠宮、野村、増田)

昭和二十四卒 クラス会開催

昨年と同様万年幹事長沢仁一君の患家？向島の京家で、一九九二



春燈や芸者の踊る四万石
相変わらずのカラオケ嫌いで、ギターのお兄さんがきてくれるのはよいが、出て来るのは古い唄ばかりである。流石に長沢君の歌に

年二月八日の宵、二十二名が集る。大体この頃は常連の顔となつて来た。去年亡くなった斎藤義朗君の黙祷、中島令一君より病状の説明があった。最後まで医師会長の役目を立派に果たしたのだという。クラス会運営費も皆の献金で五十万円に達し卒業後四十五年にして漸くその経済的基礎が固まりつつある。会はお定まりの学生時代の話から現在の体の不自由を託つことに及ぶ。手のふるえるもの、眼の弱くなったもの、等々お互にいたわり合って生きて行くことになるのであらう。長沢君の肝入りで、ここで一番元氣を出そうと看板を掲げての写真撮影となった次第。半玉の太鼓も芸者の踊りも向島ならばこそ、一同暫くうっとりとしている。

のな同窓会 第二回常任理事会 議事録

日時：平成三年十一月二十日(木)
議事内容

一、るのな同窓会の発行ならびに編集委員会の構成について
次回は一〇〇号記念の特別企画となる。記事内容は新編集委員会にて協議する。なお、編集委員長が編集委員長、岡本昭二教授が副委員長、嶋田 裕教授が編集委員となる。新たに東京地区から今井 力氏(代理福田陽氏)と千葉地区から推薦された方(未定)が加わる。

二、同窓会名簿の発行について
現在の発行準備状況を岡本常任理事(事業)が報告した。今後コンピューターによる名簿管理について検討していく。

三、四金会について
長い歴史をもつ有志の親睦会であり、特別の会則などは設けずに運営されてきている。現在は

は芸者一同から見事な合の手が入って、彼の日頃の精進振りが同われた。出席する人は皆元気のだから、これからも一人でも多くの参加を望んで止まぬ次第である。当日の出席者：中島令一、関俊之、小杉秀雄、守岡稔、高木一男、大西盛光、佐藤昇一、師尾武、小島恒教、山本博信、国府田幸夫、大林泰、柳沢頼雄、奥真一、牧豊、小林弘、大池和祐、佐藤巖、田中光、高野興三、長沢仁一、長井和行(長井和行記)

常任理事会のあとの懇談会を四金会として開いている。四金会の案内は今後同窓会報に掲載することとする。

四、卒業生のるのな会入会と歓迎会について
現在歓迎会は謝恩会と合同の形をとっており、同窓会会長が挨拶をしている。これからは副会長も参加することとする。

五、常任理事の定員増について
貫洞一夫副会長より会員の地域別人数を考慮し、常任理事定員を増やす意見が出された。次回常任理事会に具体案を提出することとなった。

六、来年度の常任理事会を開催する期日を次のように予定した。
平成四年二月十九日(木) 四月二十二日(木) 六月二十七日(土) 総会十一月二十五日(木)

七、次回同窓会総会について
千葉地区が担当であり、関係者が協議し開催の具体案をまとめる。

八、新同窓会名簿について
昨年、平成三年十一月に刊行され、すでに発送された。

五、千葉大学のるのな同窓会会則の一部改正について貫洞副会長より上記の件につき主旨説明があり、次のとき改正案が承認された。

(一)会則第七章十三条
内を「常任理事十八名以内」とする。
内を「常任理事二十六名以内」とする。

(二)第七章第二十七条
「本会に顧問若干名を置く」を「本会に参加ならびに顧問若干名をおく」とする。

(三)第七章第二十七条一
「顧問は会長の諮問に応ずる」を「参与および顧問は会長の諮問に応ずる」とする。

なお、新たに地域別を行ない、各地区から常任理事候補の推薦をうけ、次回の常任理事会にその名簿を提出することとした。

また参与については貫洞副

計 報

平成五年二月十七日(木)
常任理事会
十一月十八日(木)
総会(千葉市にて)
六月二十七日(土)
常任理事会

会長により前医学部教授・萩原彌四郎氏の推薦があった。同窓会会員補償制度について東京海上火災による説明があり、次回までに国立大学での実際の資料提示をうけ、引き続き討議することとした。

七、同窓会館の補修について
大広間の畳、障子の張替などが行われた旨の説明があった。

八、卒業生のるのな会入会と歓迎会について
同窓会会長が挨拶をし、副会長もこれに参加することとした。

氏 名	卒 年	没年月日	氏 名	卒 年	没年月日
植村 誠大	昭62	11・21	小田 壽雄	大14	平2・3・12
鶴沢 修一	昭55	4・4	矢野 豊大	大14	平3・7・15
川島 清大	平1	12・29	古川 宗哲	大14	平2・3・7
石川 丹吾	平1	12・29	国分 一朗	大14	平2・8・7
熊切 勉大	平3	3・22	立岩 博男	昭2	平2・3・14
森信 巖大	平3	3・22	中村 喜重	昭2	昭63・1・16
高山 巖大	平3	3・22	今井 新昭	昭3	昭63・1・16
山口 保大	昭64	1・7	小野 重平	昭3	平3・4・18
長島 豊治	昭64	1・7	太田恒豊	昭3	平3・2・9
坂井 文助	平2	6・17	友永 得郎	昭3	平3・7・31
鈴木 五郎	昭63	9・6	日向 千里	昭4	平3・9・10
飯村 吉彦	昭63	9・6	安中 正哉	昭5	平3・12・19
佐藤 良藏	平1	3・1	吉見 亨	昭5	平2・4・28
下島 亮二	平2	5・10	近藤 素生	昭6	平1・12・11
高橋 貞助	平2	5・10	岡谷 勝利	昭6	平1・10・28
秋田 善雄	平2	5・27	渡辺 鉦二	昭6	平2・2・11
梅林 桢三	平3	2・15	尾林 秀春	昭6	平3・12・17
紅谷 庄吾	平3	6・26	鈴木 孝輔	昭6	平3・10・18
北原 義張	平2	11・12	砂金 馨	昭7	平2・3・12
石神 三郎	平1	12・6	名和幸太郎	昭7	平3・12・15
大川 緑郎	平1	4・25	杉山 三郎	昭7	平2・2・9
			塚越 重則	昭7	平2・3・5
			嶋田 美夫	昭7	平2・2・7
			井口 隆	昭7	平1・2・2
			山崎 勲	昭7	平3・10・6
			照屋 馨	昭8	平2・12・22
			大野 憲吉	昭8	平2・3・18
			横須賀重信	昭9	平2・1・1
			島田 通男	昭9	平2・5・12
			本間 賢吉	昭9	平2・10・18
			遠藤 正俊	昭9	平2・3・21
			市川 清茂	昭10	平4・1・28
			積 惟輝	昭10	平1・10・7
			松永 松男	昭10	平3・3・10
			安孫子進郎	昭10	平2・2・2
			林 道之	昭10	平1・7・12
			奥村 郁郎	昭11	平2・4・2
			田崎 敏郎	昭11	平2・1・15
			小笠原二郎	昭11	昭61・9・12
			野本 叔昭	昭11	平2・3・12
			柳沢 文秋	昭11	平2・11・29
			手塚 邦彦	昭11	昭61・6・6
			大沢 茂樹	昭11	平2・6・27
			境 好雄	昭12	平2・9・17
			恩田 武明	昭12	平2・6・28
			大友 光博	昭12	平3・2・13
			孔 禄郎	昭12	平4・1・17
			千葉 保次	昭12	平2・11・23
			水野 秀一	昭12	平2・7・10
			日向 秀夫	昭12	平1・12・21
			綿貫 重雄	昭12	平3・11・3
			小川 象一	昭12	平3・12・5
			白幡 静夫	昭13	平3・8・17
			信夫洋太郎	昭13	平3・4・2
			真岡 修	昭14	平2・6・10
			江口 正男	昭14	平3・12・10
			小竹 稔夫	昭14	平3・7・29
			小高 四郎	昭14	平2・6・14
			茂呂 肇	昭16	平2・9・29
			平山 修	昭16	平2・3・3
			大角 総司	昭16	平4・1・15
			柳沢 文徳	昭16	平2・1・9
			外口正太郎	昭16	平4・1・2
			松田 善雄	昭17	平2・9・7
			長谷川安雅	昭17	平3・2・15
			橋爪 達男	昭17	平3・7・9
			田島 一彦	昭17	平3・12・4
			浦部 嘉夫	昭17	平2・1・4
			佐々木周三	昭17	平3・5・15
			高橋 有恒	昭18	平3・7・4
			高山 欽哉	昭18	平4・1・15
			中川 路三	昭18	平2・3・19
			野末 禮徳	昭18	平3・4・11
			狩野 蔵司	昭18	平4・1・26
			近藤利男	昭19	昭59・9・25
			郭 来春	昭19	平1・9・25

下田 松次(昭19)	平4・1・29
村上 泰邦(昭20)	平2・11・3
平田 又夫(昭20)	平3・8・26
佐藤 博(昭20)	平3・11・11
勝又俊太郎(昭20)	平2・4・26
土屋 律(昭20)	平2・6・30
井出 米夫(昭21)	平1・5・13
早田 稔(昭21)	平2・2・20
藤原喜久夫(昭21)	平1・7・5
坂本 晃彦(昭21)	平3・3・11
西郷 正勝(昭22)	平2・6・9
伊東 宏一(昭23)	平2・7・7
大西 誠(昭23)	平2・10・27
中村 昭(昭23)	平2・6・19
志鎌 重知(昭23)	平3・1・28
高沢文四郎(昭23)	平3・5・21
山崎 博(昭23)	平3・11・16
木村 保之(昭23)	平3・4・28
安生 孝夫(昭23)	平2・2・11
佐藤 定男(昭23)	平2・4・1
藤田 四郎(昭23)	平2・2・15
外園 光雄(昭23)	平2・9・18
吉田 義明(昭24)	平2・7・27
川上 仁(昭24)	平3・3・19
井野 米次(昭24)	平3・12・22
竹内 勤(昭24)	平3・7・18
徳島 馨(昭24)	平3・10・28
桑原 公達(昭24)	平3・12・19
中島三之丞(昭24)	平3・12・7
高木 輝雄(昭24)	平3・12・7
吉橋 恒信(昭25)	平4・1・7
日隈悟一郎(昭25)	平4・1・18
野末 茂昭(昭27)	平2・10・16
望月 宣之(昭27)	平2・6・19
喜瀬 真功(昭27)	平2・3・7
桂木 健(昭28)	平2・10・18
越田 浩(昭28)	平2・6・19
村山 誠(昭29)	平2・3・7
鈴木 誠(昭30)	平2・10・19
徳丸 褒(昭30)	平3・6・4

『肝臓の画像診断—細小肝癌の発見から治療まで』出版の紹介

国立がんセンター放射線診断部
医 長 高 安 賢 一 (昭和48年卒)

平成三年七月、出版した自著について紹介させていただきます。

本書は解剖・診断・治療・検査の四章から構成され、総数五七一頁の中に一三七〇枚(うちカラー一五六枚)の写真と、七〇枚をこえるカラー図説と表を載せ理解しやすく作られています。掲載されている症例は、がんセンターの豊富な切除と剖検例の中から精選されたもので、超音波・CT・血管造影を中心にRI・MRIを必要に応じて載せ、鮮明な切除標本との対比が随所になされ画像診断の真髓が理解できるように腐心したつもりです。

肝臓の画像診断の基礎となる解剖の項では、一見複雑な肝の脈管および区域解剖の解説が経皮肝門脈造影像の知見を十分に活用し、視覚的に理解しやすく記載されています。また、診断の項では、肝細胞癌を中心とした原発性肝癌から転移性肝癌、さらに鑑別診断に重要な血管腫や腺腫、FNHなどの良性腫瘍を加え、本邦では稀とされるcholangiocarcinomaや原発性のカルチノイド腫瘍など約二〇〇症例をA四変形版の頁一杯

に載せました。更に最近、明らかになってきた『早期の肝細胞癌』の各種画像と進行肝癌に至るその経過を論じています。治療の分野では、肝細胞癌におけるTAEを中心に手術や放射線療法との長短や、画像をもちいた効果判定法が述べられ、病変の発見から治療の全経過を通して画像が担うべき役割の重要性を述べました。検査の項では、鮮明な画像の撮り方とAngio Cなどの精密検査の原理に加え、ヘリカルCTなどの新しい機種を紹介を行っています。なお、巻末には各章毎にまとめた、著者自身の原著を含む約七〇〇の文献を引用し、さらに詳しく情報を知りたい読者に便宜を提供したつもりです。

本書が、肝の画像診断にたずさわる多くの先生方の手助けになると信じております。最後に、この場をお借りして母校千葉大の恩師・諸先輩方に厚くお礼を申し上げます。

文光堂 定価二万八千円。本書に興味をお持ちの方は、〒一〇四中央区築地五一一一、国立がんセンター放射線診断部(TEL 〇三三五四二二二五二、FAX 〇三三五四五一三五六七)までご連絡下さい。

平成四年四月一日より千葉市が政令指定都市になったため、るのはな同窓会は、
〒二六〇 千葉市中央区亥鼻一八一
電話 〇四三二二二七一一
内線 二〇三八
となりましたので、
ご注意ください。

病院診療D棟の新築始まる
かねて計画中であった附属病院中央診療棟D棟の新築工事が、平成三年十二月より開始された。このD棟が完成すると、附属病院医療情報部および病歴保存庫、検査部の一部、および理学療法部の一部が利用するようになる。なお、医療情報部に付属する搬送装置も設置が予定されている。D棟の完成は平成四年十月の予定である。

私の履歴書
中村卓二著(昭一〇卒)
発行所：中村病院
平成三年二月発行
非売品
定価二二〇〇円

平成四年三月二十三日には、平成三年度千葉大学卒業式が行われ、医学部学生百二十五名が卒業して、新しいのはな同窓会の会員に加わった。夜の謝恩会では、名尾会長が歓迎の挨拶を述べられたのち、乾杯の音頭を取られた。こののはな同窓会会報は、記念の百号となった。名尾会長の記念巻頭論説と井出副会長の四金会論説を掲載した。のはな同窓会の会員の投稿を期待している。

回春堂
永吉の眼科病院
故千葉保次著(昭十二年卒)
発行所：永吉の眼科病院
平成二年八月発行
非売品
伊藤医記
伊藤行男著(昭五卒)
発行所：天望書房笠井貞男
平成二年八月発行
定価二二〇〇円

さらに、四教授の退官記念祝賀会が医学部本館一階において行われた。停年になられる本田教授、村山教授、内田教授、金久保教授からご挨拶があり、さらに参会の皆さんに四教授が送られたのち、盛会の裡に祝賀会が閉じた。

○三三五四二二二五二、FAX 〇三三五四五一三五六七
までご連絡下さい。

寄贈図書
現代版赤ひげ
ドクター欽ちゃん奮闘記
高柳欽一著(昭二十四年卒)
発行所：青山書房
昭和六十二年十二月発行
定価一五〇〇円

引き続き、同大講義室において千葉大学附属図書館長・千葉大学文学部教授宇野俊一教授による記念講演「百年前の明治日本」が行われて、参会の方々には大きな感銘を与えられた。

寄付者一覧
(平成元年～平成二年)
☆なのはな同窓会への寄付
平成二年
鈴木一郎(昭42卒) 五十万円
平成三年
奥井勝二(昭28卒) 十万円
☆猪之鼻奨学会への寄付
平成元年
山本駿一(昭37卒) 百万円
中島博徳(昭23卒) 五十万円
近藤洋一郎(昭33卒) 二十万円
萩原弥四郎(昭23卒) 百万円
村山智(昭26卒) 五十万円
平成二年
近藤洋一郎(昭33卒) 二十万円
鈴木一郎(昭42卒) 五十万円
阿部尚(元千葉大学医学部職員) 十万円
越田尋子
〔故越田穆(昭28卒)〕 五十万円
三五会(幹事、藤村眞示 昭35卒) 百万円

平成四年三月十四日(土)午後二時より千葉大学医学部本館五階大講義室において、平成四年三月末日をもって停年により退官される本田良行教授(生理学第二)、村山智教授(薬理学)、内田昭夫教授(高次機能制御センター・生体情報分野)、金久保好男教授(附属病院薬剤部)の四教授退官記念式典が医学部主催にて盛大に開催された。

編集後記